

---

# 遊戯王 G X ・ 栄光と引き換えの転生

パラドックス

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

遊戯王GX・栄光と引き換えの転生

### 【Nコード】

N4008V

### 【作者名】

パラドックス

### 【あらすじ】

飲酒運転から子供を救い死んだ少年・械・シン  
彼のことを哀れに思った神様は彼の望む世界に転生させてくれることに

シンが望んだのは遊戯王GXの世界  
今彼の愉快的転生が始まる

## プロローグ（前書き）

初めてですよろしくお願いします

## プロローグ

主人公・械・シンは飲酒運転から子供を庇い死んだ少年

神様は本来なら遊戯王で世界チャンピオンの栄光を手にする彼を哀れに思いシンの望む世界・遊戯王GXの世界へ転生させる

彼のどたばたな学園生活が今つ始まる

シンクロあり・エクシーズあり・オリカあり・チートドローあり・遊戯王Rのキャラがたまに出てきます

果たしてシンは栄光と引き換えにそれ以上の物を手にすることが出来るのか？

笑いあり・ワンターンキルあり・読む人のアイデアも取り入れます

## 始まり（前書き）

よろしくお願いします  
今回はデュエルなしです

始まり

とある空間

シン

シン

「うるせえな」シン・真っ白な空間にびっくり？（ここはどこ私は誰？）シン

「ここは主の精神世界じゃ」？

「精神世界？」シン

「そうじゃ主の世界の多次元宇宙論を知っておるか？」？

「ああ・確か複数の世界に同姓同名で容姿がそっくりな人間がいるやつ？」シン

「そうじゃ」？

「察するにあんたは神様か？」シン

「・・・・・・・・・・・・・・・・なんでそれが分かったのじゃ？」  
神様

「俺は様々なネット小説を読んでな真っ白な空間にほり出される現状でそうゆうのはパターン化されて大抵神様なんだよ？初めてだけど・そんなでもって転生させてくれるパターン」シン

「それじゃあ手っ取り早い・主にはその権利が・「遊戯王GXの世界で」・はやっ？」

「それとカード引き継ぎと俺専用オリカもお願い」シン

「しょうがないのう」神様

杖をふりGXの世界の扉を開く

「いつてらっしやい」神様

「あっそうだ」シン

「何じゃ？」神様

「俺の死んだ理由教えて」シン

「実はな．．．トラックの飲酒運転から子供を救ったのじゃ．．  
本来なら主は遊戯王とゆうカードで世界一になる予定だったのじゃ．  
主が勇気で運命を変え．小さな命を救った輝かしい栄光と引き換え  
に．ゆえに主の望む世界に連れていくことを決意したのじゃ」神様

「そうか．．．さっきの態度はすいませんでした」シン

「いやいい．さあ行くがよい．かけがえのない夢の世界に」神様

「行くぜ」シンはGXの世界の扉の向こうに入った



## ? クロノス（試験用デッキ）ワンターンキル（前書き）

シンのGXでの経歴

械・シン

経歴

両親の奨めもありなおかつ精神年齢が大人のため四歳からサイバー流を学ぶ

六歳の時サイバー流マスターする試験の前日・両親が他界転生したとはいえ自分を1番に応援してくれた優しい人だったため精神的ショックでサイバー流のマスターを一時的に辞退する

同じ頃カイザーが入門

カイザーとのデュエルで熱き魂と両親のために頑張るつと復活

サイバー流のマスター試験で見事合格

ペガサスが見学していてペガサスにペガサスミニオンに入らないか？つと誘いを受けサイバー流マスターの資格を放棄するがマスター鯨島はサイバーエンドドラゴンをシンに托す

シンはペガサスミニオンに入りシンクロ召喚・エクシーズ召喚の提案などして今にいたる

？クロノス（試験用デッキ）ワンターンキル

「明日か」シン・ペガサスが用意したホテルの個室

明日はGXの始まりの日である入学試験だ

「そっぴゃカイザーって来るっけ？」シン・頑張っと思いだそうとする

「駄目だ曖昧で思い出せない・」シン

（困ったもんだ・いくらGXはとぎれとぎれしか見てないとはいえないあ？）

コンコンとホテルの個室のドアを叩く音がする

「どちら様？」シン

「僕だよ・天馬夜行だよ」夜行

「夜行????マジで夜行か？」シン・慌ててドアを開ける

そこには遊戯王Rで悪役の夜行がいた

GXの世界ではペガサスミニオンとゆう立場はかわりないがインダストリアルイリ्यूジョン社のイベント企画部の管理責任者だ

「なんの用？」シン・夜行を部屋に入れる

「以前君が提案したシンクロ召喚とエクシーズ召喚の案が通りまず実験としてデュエルアカデミアでの決闘でデータを取って徐々にこの世に出す形を取ったんだ」夜行・

「それめっちゃプレッシャー？・明日の試験に合格しなかったらどうすんだよ？」シン

「君は筆記が一位でペガサス様の推薦もあるから大丈夫」夜行

（？夜行ってRと違って結構明るいよな？・まあ初めて俺がペガサスミニオンに入った時に話しかけてくれたのは夜行でイメージと違ってびっくりしたけど）

「あつ肝心な物を渡さなきゃいけないの忘れてた」夜行

仕事用のかばんからデッキケースを三つ出す

「それは？」シン

「ペガサス様が実験段階で作ったシンクロ召喚とエクシーズ召喚のカードだよ」夜行・シンにデッキケースを渡す

俺は内容を確認する

一つ目はシンクロンデッキ

これは俺が前世の時に使っていたデッキのパーツが殆どだった

二つ目はエクシーズ

グレンザウルスとはかくホープやリバイスが入っているのには驚いた

しかもデメリット無し

俺が前世の時はエクシーズがまだ出たばかりで使い勝手が悪いイメージしかなくこれ程エクシーズが使い勝手が良いと感じたことはない

三つ目はデブリシンクロ

しかもこの世界の純制限・制限に対応するので前世の俺のいた時よりさらにえげつないことになるのではないか？

ただでさえ「天使の施し」が制限とはいえ墓地肥やしには持ってこいだ

「とりあえずサンキュー」シン

「一応聞くけど明日どんなデッキを使うの？」夜行

「サイバーデッキ」シン

「・・・きつと上級生は驚くねなんせ君はカイザーの兄弟子だから」

夜行

「そんなんじゃない・・・あいつは俺を立ち直らせてくれた恩人だから」シン

「もう夜が遅いね一応Mｒクロケッツが迎えにくるよ」夜行

「夜行・・・みんなによろしく」シン

「うん・・・じゃあお休み」夜行・部屋を出る

次の日

コンコン

「Mｒクロケッツか？」シン

「シン様・準備は出来ましたでしょうか？」クロケッツ

「ああ」シン

サイバー流デッキをデッキケースに入れる

「行くぞ」シン

Mｒクロケッツが用意した車に乗る

車内

「会場に着きました」運転手

「ありがとう」シン

「ではシン様ご武運を」クロケッツ

「ああ」シン・車を降りる

デュエルアカデミア試験会場

試験会場に入るとタイミングよく

「試験番号1番二人とも来なさい」アナウンス

「1番？つとゆうことは三沢と一緒にか」シン

試験決闘場に移動すると三沢とあった

「君か？二人目の一位は？」三沢

「ああ・俺の名前は・鎧騎・シン」シン

「俺の名前は三沢大地だよろしく」三沢

「よろしく」シン

試験決闘場

「あなたの相手は私がするノーネ」クロノス

「よろしくお願いします」シン

「では」クロノス

お互い深呼吸をする

「<sup>デュエル</sup>決闘」

「私のターンンドロー・私はボーガニアンを召喚しリバースカードをセツトマジックカードターンジャンプを発動」クロノス

「何？」シン

（確かクロノスはアンティークギアデッキのはず・・・試験用デッキか！・それにしてもターンジャンプの効果って確か）

「このカードの効果は三ターンお互いの時が経過することナノーネ・そしてボーガニアンの効果自分のスタンバイフェイズごとに600のダメージを与えるノーネよって3×600のダメージをあなたに与えるノーネ」クロノス

「うわっ！」シン

LP

4000-1800=2200

「さらに手札を一枚捨て手札よりマジック発動コストダウン・この効果で私のモンスターのレベルが二下がりますーのそして強欲な壺発動二枚ドローするノーネさらに二重召喚発動ナノーネこのカードの効果で通常召喚できるノーネこれによりボーガニアンを生け贄にThe・bigS TURNを召喚シマスーノこれでターンエンドナノーネ」クロノス

（サターンを倒したらサターンの攻撃力分ダメージがお互い受ける・

そのためにボーガニアンでライフを削ったのか手札にはサイバードラゴン三枚にデコイチ二枚・次のターン貫通能力のあるカードをドロ―されたら負けるこのドロ―に全てがかかっている）シン

「ドロ―」シン

（強欲な壺がまだ希望がある頼む来てくれパワーボンド）

「俺は強欲な壺を発動カードを二枚ドロ―する」シン

二枚のドロ―カードを確認

（融合だめだこれじゃあ・・・ん？・・・）

「どうしたノーネ？」クロノス

「勝った俺は手札から融合発動手札のサイバードラゴンを三体融合」シン

「ま・まさか」クロノス

観戦していた生徒が騒ぐ

（嘘だろ・あれはカイザーの物のはず）万場目

（お兄さんの他に使いこなす人がいるの？）翔

「融合召喚・いでよ・サイバー・エンド・ドラゴン」シン

「ナンデスとー」クロノス

「行けサイバー・エンド・ドラゴン・エターナル・エボリューション・バースト」シン

サイバーエンドドラゴンがサターンを破壊

「この瞬間サターンの効果発動互いはサターンの攻撃力分のダメージを受ける」クロノス

「勝ったと言ったはずですよ先生・速攻魔法発動・痛恨の呪術・このカードの効果で俺が受ける効果ダメージは相手が代わりに受ける」シン

「マンマミーヤ」クロノス

LP



4 0 0 0 - 6 8 0 0 || - 2 8 0 0

勝者シン

シンはデュエル終了後周りを見てカイザーを探す  
カイザーを見つけるとフツと笑っていた

（それから俺は十代の決闘を見てクロケッツが用意した車でペガサスの別荘に帰っていった）

？クロノス（試験用デッキ）ワンターンキル（後書き）

いかがだったでしょうか？

激闘??万場目・シンクロはチートです(前書き)

今回シンが使うのは全盛期トリシェーラデッキです

激闘??万場目・シンクロはチートです

アカデミア行きの船の中

俺は三沢と話していた

「やはりハイドロゲドンのために攻撃力変動カードを入れるべきか？」三沢

（俺が入学試験のデュエルでワンターンキルをやってしまい周りから質問攻めをくらった

めんどくさい・正直に言えば前世では俺は先生に質問しまくったがくだらないことだとめんどくさい顔をした先生が好きではなかった

だが今なら分かる

自分から見ればくだらない質問に答えることほどめんどくさい物はない

前世にいる先生すいませんでした

だが三沢みたく純粹に進化を求める奴からの質問は嫌いじゃない

将来の決まってるやつは今からでも強くなるべきだとゆうのが俺の考え・三沢の熱心な質問に応えよう・彼をエアーマンにさせないために）

「やはり攻撃力変動だけじゃなく・エネミーコントローラーなどはどうだ？」シン

「確かに凡庸性が高いし・上級モンスターが来ても臨機応変に対応できるな」三沢

「まもなく船がアカデミアに着くぞ」監督者

数分後

デュエルアカデミア

「ここが……デュエルアカデミア……」三沢

「空気ウマッ！」シン

三沢転ぶ

「そこなのか？君が驚くところは？」三沢

「まあな・お互いに同じ寮だといいな」シン

「ああ」三沢

とりあえず俺達は新入生歓迎の入学式を行った

相変わらずだがマスター・鯨島は変わってないのでホッとした

予想どおり俺はライイエロー制服を受け取り・三沢の近くに行き十

代と出会った

「よお・三沢やはりライイエローか」シン

「あんた誰？」十代

「ってアニキ知らないんスカ？この前入学試験でワンターニキルを  
きめて三沢君と同率一位で入学した械・シンですよ」翔

「マジで？」十代

「自己紹介するのを忘れてた・俺の名前は械・シン」シン

「俺は遊戯十代」十代

「僕は丸藤翔つすよろしくつす」翔

「おい貴様」万丈目

（出た初期差別キャラ万丈目）シン

「何だ？」シン

「俺と決闘しろ許可は下りてるからデュエル場でな」万丈目

「いいよ・デッキとり行ってくるから待ってる」シン・ライイエロ  
ー寮までデッキを取りに行く

引き返す途中翔と十代と三沢と再会した

「やめたほうがいいつすよ相手はオベリスクブルーっすよ」翔

「だが受けたからには自信があるんだよね？」十代

「YES オフコース」シン

「またサイバードラゴンデッキか？」三沢

「違う・今から使うのは実験段階のデッキ」シン

「そんなに勝てるんスカ？」翔

「大丈夫・えげつない勝ち方で相手を倒すから」シンは再び走り出し携帯をだしてとあるところに連絡した

「何だ？」海馬

「例のカード使いますんでデータお願いします」シン  
「了解した」海馬

デュエル場

「よくも来たものだな」万丈目

「あつたりまえ・売った決闘は買う・それがデュエリストだろ」シン

「減らず口もそこまでにしとけ・万丈目さんは強いんだぜ」取り巻き<sup>1</sup>

「あつそ・さつさと始めようぜ」シン

「「デュエル」」

「俺の先行ドロ・俺はヘルソルジャーを召喚カードを二枚セットし天使の施しを発動デッキからカードを三枚引き手札からカードを二枚捨てる・これでターンエンド（伏せカードは奈落の落とし穴とヘルポリマー・これならサイバーエンドドラゴンのワンターンキルでも大丈夫なはずだ）」万丈目

「俺のターン・ドロ」シン

（これは・・・このターンで勝てとゆうことか）

「怖じけづいたならサレンダーしてもいいんだぞ」万丈目

「勝った・俺は手札から天使の施し三枚引き手札から二枚捨てる・コストで送ったダンデ・ライオン効果発動・二体のトークンを特殊召喚・さらに手札からチューナーモンスター・デブリドラゴンを召喚」シン

「…………チューナー？」…………

「デブリドラゴンの効果墓地の攻撃力500以下のモンスターを蘇生する俺はダンデライオンを選択し特殊召喚・さらに大嵐発動お互いの魔法・トラップゾーンに存在するカードを全て破壊する」シン

「クソッ奈落の落とし穴が」万丈目

「これで・容赦なくいたぶれる・レベル一の綿毛トークン二体とレベル3ダンデライオンにレベル4のデブリドラゴンをチューニング」シン

「…………チューニング？」…………



「複数の小さき命の願い届く時戦いに終焉を打つため氷結界より現れる・シンクロ召喚・現れる氷結界の龍・トリシェーラ」シン

「何だその召喚方法は？」万丈目

「シンクロ召喚はチューナーモンスターとチューナーモンスター以外のモンスターを墓地に送り融合デッキから特殊召喚される新しい召喚方法だ」シン

「何だと？」万丈目

「その他にも別の召喚方法が存在するが貴様はこのターンで負ける・ダンデライオンが墓地に送られたため効果が発動するが氷結界の龍トリシェーラの効果でチェインこのカードがシンクロ召喚に成功した時相手の墓地・フィールド・手札から一枚ずつゲームから除外する。俺はお前の墓地から天使の施しで捨てた軍神ガープを・フィールドからはヘルソルジャーを・手札からは右のカードを除外してもらう」シン

「くそ・ゴースが」万丈目

「さらにトリシェーラの効果処理が終わったためダンデライオンの効果で再び綿毛トークン二体を特殊召喚するさらに手札から二重召喚発動・これによりもう一度通常召喚が許される再びいでよデブリドラゴンが召喚に成功した時墓地から攻撃力500以下のモンスターを特殊召喚・いでよダンデライオン」シン

「またトリシェーラか？」万丈目

「違うな・これはMY Favoriteカードの召喚の布石・レベル3のダンデライオンとレベル1綿毛トークンにレベル4デブリドラゴンをチューニング・疾風の音が轟く時・救いの風が今姿を現す・

シンクロ召喚いでよスターダストドラゴン」シン

スターダストドラゴンは宙を旋回しながら星屑を落としていた

「スゲエ」十代

周りの観戦者はスターダストに見とれていた

「万丈目貴様の負けだ・トリシェーラのダイレクトアタック・瞬間  
冷凍・ブリザード・フラッシュ」シン

トリシェーラのはく息が万丈目の体を覆いダメージを与える

「グワー」万丈目

「とどめだ・スターダストドラゴン・シューティングスター・ソニ  
ック」シン

万丈目

LP

4000 - 2700 - 2500 - 1200

「くそっ・覚えている」万丈目取り巻きを連れて逃げる

「すっげーな俺とデュエルしようぜ」十代

「アニキ・もうすぐ寮の新入生歓迎パーティーが始まるっすよ」翔

「それじゃ・また今度」シンは十代と翔と別れ三沢と一緒に寮に行

つた

その後万丈目がストレス発散として十代を呼んでアンティードューエ  
ルを行ったのは言うまでもない

恋の始まり（前書き）

ビッグアイ登場記念に

## 恋の始まり

揺れる心??明日香

「はぁつまらん?」シン

## 初日の授業

一時間目はカードテキストについて答えることここまでは原作通りだからつまんなくもない

2時間目は伝説のバトルシティについて

問題はここで発生した

バトルシティ偏のことはよく見ていたからこそどうゆづぶに解釈されているのかが気になっていた

だがバトルシティの本来の目的や実際に起こったことはすべて隠蔽されていることに驚いた

授業の後海馬に電話したが

「この現代でオカルト紛いのことが信じられるか?」海馬

つと返されたので潔く引き下がるが自分で体験した真実をちゃんと  
しるしておけと思いつつやはり怒りはおさまらなかった

千年アイテムに纏わる話で多くの人が死にかけたこと

開催した張本人のくせにそのへんを隠蔽したのが気に入らなかった  
ともあれ俺は怒りを感じていた

疑問に思ったクロノスは聞いても俺が答えないのでストレス解消として圧倒的ワンターンキルをデュエルで決めたらどうだと言った

クロノス

やっぱ優しいんだなあんだ

ただワンキルはえげつないぞ

ドグマブレードやキメラワンキルもあるし

なんやかんやで一日が終わり俺は十代と軽い雑談をしていた

何故か翔がいなかったが十代に聞くと

「それがわかんねえんだよ。翔の奴、朝っぱらからなんかにやけた表情しててさ。」

つと言っていた

そついや今日って何かあったっけ？

そう思いつつ過ごしていたら

十代の携帯端末がなっていた

見ると

『丸藤翔は預かった。返して欲しければ女子寮まで来い。』

つと書いてあった

不吉な予感がして俺と十代は移動し

そこには天上院明日香とその取り巻きジュンコとももえがいた

とりあえず

あつちにぶがあることだと思い

「どうも・翔がご迷惑をかけてすいませんでした」シン

「そうやっぱり」明日香

「おい・なんで謝るんだシン」十代

「いや・その人が正しいこの変態が手紙で呼び出されたって言うてんのよ」ジュンコ

「翔・お前に祈りを捧げるアーメン」シン

「ヤメテエー・それ死亡フラグ」翔・泣きじゃくりながら

「・・・・・・？ハア大丈夫よ翔君・君にチャンスをあげるから」明日香

「へ？」 翔&十代

「械シンあなたと決闘してもらっわ。」 明日香

（ってそうか今日は女子寮での決闘・なら今回は………ん？）

制服のポケットから

械シン様へ

突然ですいません？

あなたの世界でヴァリアブルブックが発売になりました

これは初心者天使が付録のナンバーズ11 ナンバーズ16のカードで作ったデッキです

これを使い楽しんでください

P.S.

重要な出来事ならすいません

神より

（とりあえずこれでやるか）



「準備は出来たようね」明日香

「ああ」シン

「「決闘」」

「俺の先行・ドロー俺は手札から終末の騎士を召喚・効果によりデッキから闇属性モンスターを一枚墓地に送る・俺はレベルステイラーを墓地にさらに手札から天使の施しで三枚引いて二枚捨てリバースカードを二枚セットしてターンエンド」シン

「私のターン・手札からマジックカード融合発動・サイバーブレイダーを融合召喚さらに手札からマジックカード発動アームズホール通常召喚の権利を破棄しデッキから装備魔法を手札に加える私は巨大化を手札に加える」明日香

（ワンキルを狙っているな）シン

「私は天使の施しで三枚引いて二枚捨てる・さらに命懸けの駆け引き（オリカ）このカードは自分が相手にバトルフェイズで戦闘・直接攻撃で与えるダメージを宣言し千ポイント支払いカードを二枚ドロウするただし宣言したポイント分ダメージを与えられない場合相手はカードを三枚ドロウする・私が宣言するのは三千」明日香

「ヤバイツスよヤバイツスよ」翔

「私は武装転生を二枚発動墓地にある巨大化とデーモンの斧をサイバーブレイダーに装備・サイバーブレイダーで攻撃・グリッサード・スラッシュ」明日香

「トラップ発動・ハーフダメージこのカードの効果は自分フィールドのモンスター一体の攻撃力を0にするかわり発生する戦闘ダメージを一度だけ半分にする」シン

LP4000 - (5200 - 2600) = 1400

「速効魔法非常食・私は装備魔法二枚をコストにライフポイントを二千回復する」明日香

「それと命懸けの駆け引きに三千のダメージだ」シン

LP5000 - 3000 = 2000

「カードを二枚セットしてターンエンドよ」明日香

(この手札やバйнаハリケーンしかまともなカードがない)

「俺のターンドロー俺は強欲な壺を発動デッキからカードを二枚ドローする」シン

(手札にきたのはガガマジシャンと黙する死者・いくら初心者天使が作ったデッキとしてもこれはひどいこの状況で逆転勝ちするには……………そうかこうすれば)

「どうした？怖じけついた？」ジュンコ

「フツ勝った・俺はマジックカードハリケーンと黙する死者発動・ハリケーンの効果により互いのリバースカードを手札に戻し黙する死者の効果で天使の施しで墓地に送ったレッドアイズブラックドラゴンを特殊召喚・さらにガガマジシャンを召喚」シン  
「そんな・・・」

「でもそんなので明日香さんのサイバーブリーダーは倒せないわよ」  
ももえ

「べつに倒さなくていいんだ」シン

「え？」明日香

「見せてやろう融合や儀式召喚を越えた召喚エクシース召喚を」シン

「」「」「エクシース召喚？？？」」「」「」

「何なのよそれ？」ジュンコ

「今に分かる・俺はガガマジシヤンの効果発動・ガガマジシヤンはレベルを1〜8まで宣言したレベルに変更出来る・俺はレベル7を宣言・これで準備はできた・俺はレベル7となったガガマジシヤンとレベル7のレッドアイズブラックドラゴンをオーバーレイ」シン

「すっげー何が始まるんだ？ワクワクするぜ」十代

「二体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築エクシース召喚・現れよNo.11・ビッグアイ」シン

「それがどうしたの未知なる召喚であろうともサイバーブリーダーは効果で戦闘では破壊されない」明日香

「そうかじゃあどうすんだシン」十代

「大丈夫だ問題ない・初めて見せた召喚だからエクシースモンスター

ーの特徴を教えてやる・エクシーズモンスターは同じレベルのモンスターを使い召喚されるエクシーズモンスターの召喚に使った素材はエクシーズモンスターの下に重なる形で出現し・エクシーズモンスターは召喚に使った素材を墓地に送り効果が発動する・レベルとゆう概念はなく・ランクとして扱われる・さてと説明はこの辺にしてデュエルに幕を下ろすかNo.11・ビッグアイの効果発動・」シン

「……何ですって？」明日香

サイバーブレーダーのコントロール権がシンに

「ビッグアイの効果・それはエクシーズ素材を一枚墓地に送りこのカードの攻撃権利を破棄することで相手モンスターのコントロールを得る」シン

「なんですって」明日香

「すげえ」十代

「とどめだ・サイバーブレーダーでダイレクトアタックグリッサード・スラッシュ」シン

「なによエクシーズ召喚ってゆうインチキカード使って」ジュンコ

「????俺を拾ってくれたペガサスを馬鹿にするな」シン

「……は？」ももえ

「ちょっと待ってあなたはもしかして」明日香

「さすが天上院明日香予想通りだ俺はインダストリアルイリユー  
ジョン社の会長ペガサス」クロフォードが集めた孤児・ペガサスミニ  
オンだ」シン

「ペガサスミニオンって何？」 翔&十代

「簡単に言えばデュエルモンスターの生みの親ペガサスの養子だ  
おれは七歳の時からペガサスに尽力した・シンクロ召喚・エクシー  
ズ召喚はその過程で生まれた・そして海馬コーポレーションの協力  
のもとこのデュエルアカデミアで実験することになったのがシンク  
ロ召喚・エクシーズ召喚だ」シン

「そうだったの？」 明日香

「ああ・今日は夜が遅いまた後日質問があったら話そう」シン

「じゃ・帰るぞ翔」十代

十代と翔はレッド寮に向かい船を走らせた

「んじゃ帰るか」シン

その時俺は明日香が憐れんだ目で俺を見たのを俺は気がついた

なんだこの胸が苦しいが嫌じゃないこの感じは

まさか・・・これが恋なのか？

俺は胸の苦しみのあまり寝れず次の日は授業を大爆睡してしまい説教をくらってしまった

試験前日・デッキ強化（前書き）

今回はデュエルなしです

## 試験前日・デッキ強化

試験の前日

俺は三沢と一緒に極秘ルームに来ていた

理由は簡単

デッキ強化のためだ

ただエレベーターに乗ろうとしたところ

不幸中の不幸か

明日香はともかく十代と翔に鉢合わせになった

仕方なく

俺達は極秘ルームとは建前の

インダストリアルイリジューション社の俺の所有カード室に来ていた

「すっげー」十代

「これ……全部シンが所有するカードなのか？」三沢

「ああ」シン

ちなみにイメージしてもらうには王立魔法図書館の狭まったのをイメージしてください



「スゴイッス」っと翔が見てもまる見えにカードをポケットにいれていた

「クロケッツ！カードが盗まれている・警備員達を呼んでくれ」シン

「ヤメテエー！！」翔

「何人の大切なカードを盗もうとしているの？せっかくだからあげようとしたのを君が俺の宝を盗もうつとするなら君はバトルシティのグールズ並のクズだなそれに」シン

「シン・ゴメン」十代

「十代が謝ることじゃないさ……仕方ない……君らのデッキに合うカードをあげよう……それと翔」シン

「はい！」翔

「今度から盗むなよ……今度は退学騒ぎになるくらいやるから」シン・握りこぶしを見せながら

「はいいゝ？」翔

とつまあ十代達のデッキはいかのとおり

十代

超融合を除いた属性HEROデッキ

翔

漫画版のロイドを合わせた火力重機ロイドデッキ

三沢

水属性デッキに恐竜カードを加えたもの

明日香

サイバーエンジェルプラスオリカ

プルルルル・プルルルル・プルルルル

「何だ？」シン

・・・・・・・・・・・・・・・・

「十代・用事が出来た・今日はここまでにして寮に戻ってくれ」シン

「マジで用事なら仕方ないな行くぞ翔」十代

「了解ッス・アニキ」翔

「それじゃあまた明日」明日香

「寮に先に戻ってるぞ」三沢

「ああ」シン

数10分後

定期船来航の灯台

「待たせたな・・・そして久しぶりだな・・・カイザー・いや丸藤亮！」シン

「お久しぶりです」

## 試験前日・デッキ強化（後書き）

### 次回予告

明かされるサイバー流伝承の過去

両親が死んでからのシンはまるでクラッシュタウン編に出て来た当初の鬼柳のような目をしていた

・  
・  
丸藤亮（当時八歳）は独自のサイバーデッキでシンに立ち向かうが・

## サイバー流対未サイバー流（前書き）

遅れてすみません？

## サイバー流対未サイバー流

「明日……クロノス先生に頼んで指名して試験相手になってもらってもいいですか？」カイザー

「……構わない・それと敬語はやめてくれ・もう俺はお前の兄弟子じゃない」シン

「分かった……それにしても明日・遂に本気のあなたとデュエル出来るんですね」カイザー

「ああ」シン

(思えば……この世界の父さんと母さんが死んだ時に始まった)

「あの時の俺は生気を持たずただひらすらにデュエルしていた

「サイバードラゴンで直撃」シン

「リミッター解除により攻撃力が二倍になったサイバードラゴン三  
体で攻撃」シン

「ぐわっ」「くそっ」相手

俺は両親が目標だった・開闢・終焉ビートダウンデッキをもってしても勝てなかったそして俺は強くなり両親と肩を並べるいや越えるためにサイバー流を伝承することにした

とうとうマスター 鯨島に認められサイバーエンドドラゴンを継承したその日

飛行機事故に巻き込まれ両親は死亡」シン

後で神にきいたことだが生活に支障がないよう精神年齢も0からスタートだったとゆう

「俺は不満足の中でお前に会ったんだっけ」シン

「はい・そしてあのデュエルが始まったんです」亮  
回想

「よろしくお願いいたします」亮

「いいから来い！」シン

「「デュエル」」亮&シン

「先行をもらいますドロー・俺は天使の施しで三枚ひいて二枚捨てる・さらにマジックカード 苦渋の選択を発動・俺はビッグバイパー三枚と・Xヘッドキャノン二枚を選択を選択」亮

「俺はXヘッドキャノンを選択」シン

「Xヘッドキャノンを手札に加えてそれ以外を墓地に送ります・さらに手札抹殺を発動・お互いは手札をすべて捨てて・その枚数分カードをドローしますそしてサイバーフェニックスを召喚・カードを三枚伏せターンエンド」亮

「俺のターン・俺は手札からサイバーサポートファクトリーを発動・

このカードは互いに機械族モンスターを任意の枚数除外しその枚数・かける四つのターンカウンターを乗せ・互いのエンドフェイズにターンカウンターを一つ取り除く・ターンカウンターが0になった時・この効果で除外したモンスターを手札に加える・ただしサイバーと名の付いたモンスターを除外する場合モンスターの数かける二つのターンカウンターを減らすことが出来る・俺はサイバードラゴン三体和プロトサイバードラゴンを除外」シン

「俺もサイバードラゴン三体とプロトサイバードラゴンを除外」亮

「俺はリミッタータイムナンバー4を召喚・このカードが破壊されたときライフを半分にしてターンカウンターを0にするちなみに戦闘で破壊された場合・リミッタータイムナンバー0～3をデッキから召喚する」シン

「だが・・・このターンでサイバーエンドドラゴンを召喚する方法がある」亮

「そうだ・俺は瞬間爆発発動このカードは自分のモンスター・一体を破壊してあいてモンスター・一体を破壊する俺の場にはリミッタータイムが・お前の場にはサイバーフェニックスがだがこのままでは・お前の場にもサイバードラゴンが召喚されるチェーン発動異次元からの埋葬」シン

「異次元からの埋葬?!?!」亮

「このカードの効果で・除外されている三枚のカードを墓地に送る・俺はお前の除外されているサイバードラゴン三枚を墓地にチェーン発動により瞬間爆発は異次元からの埋葬の次に効果が発動するサイ



バーフェニックスとリミッタータイムナンバー4を破壊」シン

「これによりサイバードラゴン三体とプロトサイバードラゴン一体がフィールドに……。だが俺の場にもプロトサイバードラゴンが召喚されるそして俺はリバースカード発動・不意打ちリサイクル・このカードは相手が・攻撃力二千以上のモンスター三体以上特殊召喚したとき・墓地のマジックカードを発動できる・俺は苦渋の選択を発動……。俺は王室前のガーディアン二枚・三体とプロトサイバードラゴン二体を選択」亮

「俺はプロトサイバードラゴンを選択する・手札に加えたあと・俺は融合を発動・三体のサイバードラゴンを融合してサイバーエンドドラゴン・バトル・エターナルエボリューション・バースト」シン

「俺は霧がくれを発動・霧がくれはこのターン俺のダメージを0にする・」亮

「くそっ」シン

（だがなんだこのこみあげる感情は……。俺は喜びを感じている????????）

「サイバーフェニックスが戦闘破壊されたためカードを一枚ドロ・」  
「亮

「二枚伏せてターンエンドだ」シン

「俺のターン……。俺は手札から強欲なつばを発動・二枚ドローそして魔法石の採掘で手札二枚と引き換えに墓地から苦渋の選択を手

札に・そして苦渋の選択を発動・俺はサイバラーバア三体とサイバードラゴンツバアイ二枚を選択」亮

「なら俺はサイバードラゴンツバアイを選択」シン

「サイバードラゴンツバアイを手札に・・・フウ・・・やっと準備が整った」亮

「何????」シン

「おれはサイバードラゴンツバアイを召喚して・手札のサイバーエルトニアンの効果発動・このカードは光属性・機械族モンスターをフィールドと墓地からすべて除外しこのカードを特殊召喚する・おれはサイバードラゴン三枚とサイバラーバア・三枚・サイバードラゴンツバアイ三枚・Xヘッドキャノン三枚・ビッグバイパー三枚・王室前のガーディアン三枚・プロトサイバードラゴン三枚を除外しサイバーエルトニアンを特殊召喚」亮

「トラップ発動・メカ・コーティング・このカードの効果でフィールド上に存在する機械族は戦闘以外でフィールドから離れることはない」シン

「だがサイバーエルトニアンの攻撃力は除外したモンスターかける五百・除外した枚数は21枚よって攻撃力は一万五百さらにリミッター解除により攻撃力を二倍にして攻撃・ドラゴニス・エボリューション・シュート」亮  
シンLP0

「あ~~~~何だろ・・・俺は不満だ・・・悔しくて泣きたいぐらい・・・」シン

## 回想

「その後あなたはサイバー流を体得したあとあなたはインダストリアルイリリュージョン社のペガサス会長の養子となった」亮

「ああ・・・あのあと俺は強くなったはずだ・・・しかし不満足のままだ・・・だからこそ明日のデュエル・・・リベンジさせてもらう・・・お互いのプライドを賭けて」シン

「ええ」亮

二人の目には炎がたぎっていた

## サイバー流対未サイバー流（後書き）

もしかしたらライダー小説のために更新が遅れるかも知れませんが  
楽しみにしている方々にお詫びを申し上げます？

## プライドを賭けたりベンジ（前書き）

週間アクセス155ありがとうございます

これからも頑張って書きます

読んでくれる方々本当にありがとうございます???

## プライドを賭けたリベンジ

十代は原作通り遅刻・・・クロノスがパックを買い上げ万上目にわたしていたがものの見事に十代にワンキルを成功させていた

手順は

大嵐

未来融合

エリクシーラーを選択

融合

ネクロダークとオーシャンを素材にエスクリダオを召喚

ネクロダークの効果でエツジマン召喚

エツジマンでVWを破壊

エスクリダオでダイレクト

融合解除

ネクロダークとオーシャンでとどめ

当然万上目とクロノスは意気消沈

そしていよいよ俺の番がきた

十代側

「なあカイザーとシンどっちが勝つと思う？」十代

「さあ？」翔

「今までの傾向だとまったく同じ戦法のサイバードラゴンデッキ・  
・お互い最終的にたどりつくのは」明日香

「・・・サイバーエンドドラゴンか・・・確かに天上目君が言う  
ようにどちらかが・タイミングを計り・グッドタイミングでサイバ  
ーエンドドラゴンを召喚するにかかっているな」三沢

「おっ始まるぞ」十代

「では丸藤亮対シンデュエル初め」試験官

「「デュエル」「シン&亮

「先行は貰う俺のターン・俺はモンスターをセット・カードを二枚  
セットしてターンエンド」シン

「俺のターン・・・プロトサイバードラゴンを召喚して手札から融合  
を発動・手札のサイバードラゴンとフィールドのプロトサイバード  
ラゴンを融合・現れる・サイバーツインドラゴン・サイバーツイン  
ドラゴンで攻撃・ツインエボリューションバースト・第一打〜」  
カイザー

「セットモンスターはシャインエンジェル・戦闘で破壊されたため・  
デッキから光属性モンスターを特殊召喚・いでよプロトサイバード  
ラゴン・さらに地獄の暴走召喚発動このカードの効果は攻撃力千五  
百以下のモンスターを特殊召喚した時互いはモンスターを選択しデ  
ッキ・手札・墓地から同名モンスターを特殊召喚する・プロトサイ

バードラゴンは効果でサイバードラゴンとなるためサイバードラゴン三体を特殊召喚する」シン

「く・サイバーツインは融合モンスター・効果の対象外・ならサイバーツインでプロトサイバーを攻撃」カイザー

「甘い・リバースカードドレインシールド発動・攻撃を一回無効にして無効にしたモンスターの攻撃力分ライフを回復する」シン  
LP 4000 + 2800 = 6800

「く・カードを二枚伏せてターンエンド」カイザー

「俺のターン・俺は手札から・ハリケーン発動・互いの魔法トラップゾーンにあるカードをすべて手札に戻す」シン

「く」カイザー

「さらに手札から・サイバードラゴンツバアイを召喚・効果により魔法カードを見せることによってこのカードの名前はサイバードラゴンとなる俺が見せるのは融合・」シン

「何？」カイザー

「このまま決まればカイザーの負けだ」三沢  
「お兄さん」翔

「融合発動・サイバードラゴンとなったプロトサイバードラゴンとサイバードラゴンツバアイとサイバードラゴンを融合・現れる・サイバーエンドドラゴン・・・そして攻撃・エターナル・エボリューション・バースト」シン



サイバーツインドラゴン撃破

4000 - 1200 = 2800

「さらにサイバードラゴン二体でダイレクトアタック」シン

「甘い・手札のマシン・ダメージ・ガードナーを捨て・効果発動・このターン機械族が破壊されていた場合・ダイレクトアタックによるダメージを0にする」カイザー

「フン・そうなくては天よりの宝札で互いはカードを6枚になるようカードをドローするカードを二枚ふせて・永続魔法禁止令・このカードは俺が宣言したカードを使用することを不可能にする・俺はパワーボンドを宣言・ターンエンドだ」シン

「カイザーの決まり手のパワーボンドが封じられた」三沢

「さらにはあのリバーカードはおそらく」翔

「リミッター解除」明日香

「俺のターン・手札から死者転生を発動・手札を一枚すて墓地にあるモンスターを手札に加える・俺はサイバードラゴンを手札に融合発動・手札のサイバードラゴン三枚を融合し・現れるサイバーエンドドラゴン・さらに・リミッター解除・これにより機械族モンスターの攻撃力を倍にするさらに死者蘇生・現れるマジックキャンセラー・これにより互いはマジックカードを使えない・リミッター解除を使えない今がチャンス・行けサイバー・エンド・ドラゴン・エボリューションバースト」カイザー

「あのゴミの負けか・・・」万上目

「勝った・俺はオネストの効果発動」シン

「何？オネストだと」カイザー

「そうだ・このカードは光属性モンスターが戦闘を行う時手札から捨てて発動する・戦闘する相手モンスターの攻撃力を自分の戦闘するモンスターに加える・サイバーエンドドラゴンの攻撃力八千を・俺のサイバーエンドドラゴンに加える・返り討ちだカウンター・エボリューションバースト」シン

「く」カイザー

LP2800 - 12000 - 9200

「バツバカな・カイザーが負けた」万上目

「嘘だろ」とりまき

「お兄さんが負けた」翔

「よっしゃ~~~~・・・リベンジ果たしたぜ・亮」シン

「やはり・本気のあなたは強いな」亮

「満足だぜ・亮」シン

「えゝシン君・君は見事にリベンジを果たし・なおかつ素晴らしいデュエル見せてくれましたそして定期テスト・高得点により・君をオベリスク・ブルーの昇格を許可します」鮫島

「ようこそ・オベリスクブルーに」亮

「ああ」シン

亮に握手する

そんななかインダストリアルイリユージョン社では

極秘カードが盗まれていた

「どこだ」警備員

「あれを外に持ち出すな・・・SINカードを」警備員ビ

## プライドを賭けたリベンジ（後書き）

オリジナルSINカードと盗んだ人はセブンスター編に出てきます

今度の話はデュエルなしでタイタンが出てきます

それと一部とばすかもしれないのでご了承ください

## あわれタイタン・クロノスの年貢おさめ（前書き）

密林さんに指摘され名前を最初の文字だけ表示することにしました

密林さんこれでいかがでしょうか？

さらには作者の知識不足に土下座します？

これからはネットなどで質問したり・調べたりして正しく書いていこうと思います

それでも違う場合は指摘してください

ではよろしくお願いいたします

## あわれタイタン・クロノスの年貢おさめ

数日後

俺とカイザーは十代に誘われ怪談をしていた

「とある工場では・・あまりにも酷い扱いを受けた機械が感情を持ち一人また一人と人を機械のなかに入れるらしい」シ

「怖いっす」翔

つとこんな感じで怪談をしていると大徳寺先生がやって来て廃寮の話をした

よし・タイタンにはかわいそうだけど・クロノスも巻き込んでやる  
翌日

俺は海馬コーポレーションに嘘（実際今日起こるから嘘じゃないけど）クロノスが不審者をやとい廃寮に生徒を襲おうとしていることを連絡

そして夜

十代に誘われ散歩するとゆう名目のもと廃寮前にくると

「なぜだ〜」タ

「大人しくしろ不審者・あつシン様」海馬コーポレーション警備員

「おゝやはり不審者がいたか・・・」シ

「やはりつて??」翔

「ああクロノスが十代を腹いせに退学までもちこもうとして不審者を雇ったんだ」シ

「そこまでするんすか?? たかがデュエルに負けたからって」翔

「正々堂々やってくればいいのに」十

「十代言っておく・・・人にはプライドを踏み潰されたら人は何でもすると」シ

「分かった」十

次の日

クロノスが担当する授業は自習

俺は海馬コーポレーションに依頼していた・翔ののぞき見事件の筆跡・タイタンとの取引のビデオを見せ

クロノスは減給

タイタンはクロノスの暴走で雇われたため

二度としないことを誓い

そしてデュエルの知識・錬金術の知識・その他もろもろの知識もあったため

予備の教師としてアカデミア役員として静かに働いてそしてたまにこの学園に教えることになったとさ



恋する乙女はシャークさんの前では無意味なのです（前書き）

今回はレイ編です

神楽坂の話は次の話になります

恋する乙女はシャークさんの前では無意味なのです

冬休みも過ごし・・・正式にタイタンはデュエルアカデミア教師に

タイタンは生徒から人気で基本デッキから勝てるマニアックデッキなどを作り方を教え

月一試験で高得点をだした生徒にはレアカードを渡すとゆう方針だ

しかしタイタンいいのか???

一枚ん十万円のカードをだして

話を聞くと海馬に頼み試しにやっているらしい

実際成績最下位の連中が成績をあげてきて成功

海馬は気をよくしてタイタンの給料を上げた

対するクロノスは

ローンがあるためか減給はかなり響き

内職までしているとか

つとすると風の噂でレッドに転校生が来たと言った

まあ関係ないが

しかし俺も普通の学校生活を送る訳にいかず

そろそろエクシーズ召喚とシンクロ召喚の中間報告の期限が迫っていた

そのため日々翔と十代・隼人に頼みこみデュエルを行う日々だ

そろそろ実験台のカードをかなり使って報告書も順調

あとはゼアルでカイトにボコボコにされたあの人のデッキか  
(シャークファンの皆様別に軽蔑の意味じゃないです・作者はシャークさん好きです)

っとカイザーと雑談しながら報告書を書いてると

レッド寮の生徒???が部屋に入ってきた

「カイザー〜〜」レ

「誰だ〜〜・おい・亮・お前の知り合いか?」シ

「いや知らん」カ

「おい・い・レ・イ・ここにいたか」十  
「っち」レ

レイ・走って逃げる

「おい・クロケッツ不審者だ・学園の監視カメラを使って追え」シ

「ラジャー」クローケ

数分後

海岸にいるところを見つかり

海風で帽子が飛ばされレイが女と発覚！

「僕とデュエルだ・そうしたらこのことを秘密にしてもらおう」レ

「（結局このあと警備員に捕まるけど）・・・まあいつか・・・そのデュエル受けてたつ」シ

「「デュエル」「シン＆レイ

「僕のターン・恋する乙女を召喚して・カードを二枚セットしてターンエンド」レ

「俺のターン・俺は天使の施し発動・三枚引いて二枚捨てる・さらに死者蘇生・現れる・超古深海王シーラーカンス」シ

「いきなり上級モンスター（だけど伏せカードで私に被害は0のはず）」レ

「シーラーカンスの効果発動・手札を一枚捨ててデッキからレベル4以下の・魚族を可能な限り召喚する・ただし効果は使用できず・攻撃宣言することもできない俺はビッグ・ジョーズ二体とフライフアング二体を召喚・・・」シ

「それで何するつもり・・・魚族なんて雑魚を並べて」レ

「なら見せてやるよお前のゆう雑魚の底力を・手札からハリケーン発動・互いの魔法・トラップゾーンに存在するカードを手札に戻す」シ

「えっ・・・きゃっ」レ

「さらにビッグジョーズ二体でオーバーレイユニットを構築・エクシーズ召喚・現れるブラック・レイ・ランサー」シ

「何この召喚方法？」レ

「迷惑をかけまくる・馬鹿な奴に説明する気も起きんな・さらにフライアング二体でオーバーレイユニットを構築・エクシーズ召喚・現れる・No.17・リバイス・ドラゴン・・・おっと・俺はまだ通常召喚を行っていない・・・このことがどんなことか・分かるか??」シ

「ささあ？」レ

「俺はキラ・ラブ力を召喚・さらに魚族モンスターが召喚されたため手札よりシャーク・サッカーを特殊召喚・二体のモンスターでオーバーレイユニットを構築・エクシーズ召喚・現れる潜空母艦エアロ・シャーク」シ

「あわわわわわわ」レ

「ブラックレイランサーの効果発動・エクシーズ素材を一つ取り除き・相手モンスターを選択して選択したモンスターの効果を無効にする・さらにリバイスドラゴンの効果発動・エクシーズ素材を一つ取り除き・攻撃力を五百アップ・終わりだ・ブラックレイランサー

で攻撃・ブラック・スパア」シ

「きゃゝ」レ

「エアロシャークの攻撃・ビッグイーター・そしてとどめだ・リバイスドラゴンの攻撃・リバイス・ストリーム」シ

LP

「さてと・・・あとはあいつらに任せるか・・・クロケッツ・あとは頼む」シ

「了解・しました・シン様・あと」クロケ

「何だ？」シ

「明後日より急にペガサス様が海馬コーポレーション主催のデュエル大会の見学のため・急きょ・レポートの提出を明日までにしてほしいのですが」クロケ

「・・・・・・・・・・・・・・・・ツハ~~~~~?」シ

「ではよろしくお願いいたします」クロケ

「お・おいクロケッツ・クロケッツ?」シ

俺はそのたむ中間報告のレポートを徹夜でするはめとなり

当然・授業は寝てて怒られたとさ

神楽坂・忍者をなめたらあかんですよ(前書き)

今回は意外な人が登場します

## 神楽坂・忍者をなめたらあかんですよ

予定より少し遅れたが・・・武藤遊戯のデッキ展示が明日始まる・理由は簡単だ・・・カイザーにリベンジを果たした日にインダストリアルイリジジョン社の極秘カードが嚴重な警備のなか盗まれたからだ

そのことは不安だが別に俺は遊戯さんのデッキをまるごと持つているため見る必要はないが・・・だが神楽坂の件も今日のはず・・・

いくら自分のデッキで勝てないとはいえデッキを盗むのは犯罪行為・待ち伏せするか

夜

俺は海岸付近で神楽坂を待ち伏せしていた  
が・・・先に人がいて俺はその人を知っていたため遠くから覗いていた

「クツクツク・・・ようやく俺は最強のデッキを手に入れた」神

「そいつはどうか？」忍者の格好をした男

「貴様は誰だ・・・まあいい・・・デュエルだ」神

「了承したでゴザル・・・勝ったら盗んだデッキをもとに戻すでゴザル」？



「なぜ・・・なぜこれを盗んだものとまあいい」神

「「デュエル」」神&？

「俺の先行ドロ・苦渋の選択を発動・デッキから5枚数のカードを選択して・相手に一枚選ばせ・選ばれたカードは手札に・選ばれなかったカードは墓地におくる・俺はマグネットウォリアーの（アルファ）・（ベータ）・（ガンマ）・マジシャン・オブ・ブラックカオス・ブラック・マジシャンを選択」神

「拙者はマジシャン・オブ・ブラック・カオスを選択」シ

「マジシャン・オブ・ブラック・カオスを手札に加える・死者転生発動・加えたマジシャン・オブ・ブラック・カオスをコストにマグネットウォリアーを手札に加える・さらに手札から闇の量産工場を発動・墓地の通常モンスターを手札に戻す・俺はマグネットウォリアーとマグネットウォリアーを手札に加える・さらに手札の・をいけにえにマグネットバルキリオンを召喚さらに・バルキリオンの効果で・墓地の・のマグネットウォリアーをこのカードをいけにえに三体とも守備表示で特殊召喚・死者蘇生発動・墓地に送ったバルキリオンを蘇生し・天よりの宝札・互いは手札を6枚になるようカードを引き・カードを一枚セットしてターンエンド」神

「拙者のターン・ドロ・このターンで終わりじゃ・手札の機甲忍者アースを特殊召喚・このカードはカイザーとやら持っているサイバードラゴンと同じ効果じゃ・さらに・機甲忍者フレイムを召喚しフレイムの効果発動・このカードの召喚に成功した時レベルを一つ

上げる・拙者はフレイム自身のレベルを上げ・レベルを5にする」シ

「レベルを同じにしてなんの価値が」神

「なら見せてやろう・レベル5の二体のモンスターでオーバーレイユニットを構築・エクシーズ召喚・参上せよ・No.12・機甲忍者クリムゾン・シャドー」シ

「エクシーズ召喚だと・・・馬鹿なそれは・シンしか持っていないはず・・・」神

「悪いがの拙者はインダストリアルイリユニジョン社の警備員・じや・この機甲忍者シリーズはペガサスが拙者のために作り上げたものじゃ・ペガサスはもうすぐエクシーズ召喚を世にだすため拙者に託したのじゃ・じゃが拙者のターンはまだ終わっていない・機甲忍法・サモン・コール・このカードはフィールドに機構忍者が存在するとき・デッキから機構忍者二体を効果と攻撃宣言をなくして特殊召喚・見参せよ・機甲忍者アクア・機甲忍者・エア・さらに・アクアとエアでオーバーレイユニットを構築・見参せよ・機甲忍者・ブレード・ハート・さらにサイクロンでリバースカードを破壊・さらに・機甲忍法・チェンジバースト・風属性の機甲忍者と名の付いたモンスターがいるとき相手モンスターの表示形式をすべて変更する・さらに装備魔法・ブレイク・鎖がまをクリムゾン・シャドーに装備・ゆけクリムゾン・シャドー・破壊の鎖がま・ブレイクチェーン・ブレイク鎖がまの効果発動・装備モンスターが攻撃するとき相手のカード一枚破壊する

バルキリオンを選択し破壊

マグネットウォリアー 撃破」

LP

「くそ」神

「ブレードハートの効果発動エクシーズ素材を一つ取り除き・忍者と名の付いたモンスターにもう一回攻撃する権利を与える」？

「ナツニー？・それじゃあ」神

「ゆけい・クリムゾンシャドー・さらに鎖がまの効果を使い・を破壊し・に攻撃・さらにブレードハートでとどめじゃ」？

「クリボーをドロウ出来ていなかったか・・・これが遊戯さんのゆうデッキの信賴してない結果か・・・」シ

「ではデッキは返してもらっぞ」？・少し歩いて

「あいつ・・・立ち直れますかね・・・」

「さあな・・・今回は護衛ついでにやったが・・・あいつはいつか立ち直れるさ」

「そうですか・・・それにしても・・・もう開発されたんですね・・忍者モンスター・・・リッチーさん」シ

「ああ・・・それにしてもこれは辛かったぜ・・・時代劇にはまってプロとはいえ変装するはめになったんだからな」リ

「本当にお疲れ様でした」シ・衣装とデッキを受けとって

「ああ・・・それとインダストリアルイリユージョン社に妙な手紙が届いた・・・」リ

「妙な手紙？」シ

「ああ・・・進化をうみし者を罪深い力で葬り去ると・・・としか書いてねえ」リ

「何でしょうね」シ

そんななか

理事長室

「つで例のカードは」影丸

「こちらに・・・他のカードと組み合わせれば使いものになると・・・」？

「フムフム・・・ならば実験としてシンを狙うのだ」？

「は!」？

神楽坂・忍者をなめたらあかんですよ（後書き）

次回予告

休学をして幼い頃暮らした家に戻ったシン

そこに影丸の部下が封印されたカードを使い襲い掛かる

次回

脅威のSINモンスター前編

**脅威なるSINNモンスター（前書き）**

オリジナルSINN登場です

作者はパドックスファンです

## 脅威なるS I N モンスター

「えっ休学??」シ

「ああ・・貴様の協力で・シンクロ召喚・エクシーズ召喚は秋から始動することが決まってるな・・貴様も俺やペガサスの急な用事に振り回され肩がこってるだろう??ペガサスに提案して・・しばらく休みを与えることにした」海馬

「はあ」シ

「旅行したければ・場所を言え・・移動費用と旅館の費用はこちらから出す」海

「なら・・・実家に帰っていいですか??」シ

「たった一人の妹が心配か・・まあその気持ちは分かる・・俺にもモクバがいるからな・・明日・迎いのヘリコプターを向かわせる」海

「では失礼します・・」シ

数分後

「ツエー??休暇?」十

「ああ・・しばらく休み無かったからな・・」シ

「でもいいな・・」十

「仕方ないノーネ・・シニョールシンは・・仕事を兼用しながら学年一位を保ってるノーネ・・今回の休暇は当然ナノーネ」クロ

「だから・・明日から十日間・・学園を留守にするな」シ

「でも実家って家族いないって言ってなかったすか??」翔

「翔!!」三&十

「血の繋がった・・妹がいるんだ・・今は親戚に引き取られて  
いるけど」シ

「すいませんッス」翔

「いや・・いいんだ・・言わなかった俺も悪いし・・」シ

その後十代達は察してか・・家族に関して話さなかった

転生前の家族は俺をかばい交通事故で死んだ

だから・・だからこそ・・転生した時・・一緒にいた家族も・  
・生きていてほしかった・・

翌日

「久しぶりだな・・童実野町」シ「シン様」高見澤

「何だ?」シ

「頼まれたとおりハウスキーパーにより・・掃除などは完了してお



ります・・・」高

「了解・・・この時間レナは学校か・・・・・・・・それにしても・・・新しいデッキを組んどくか・・・」シ

「おい・・・その兄さん・・・デュエルしないかい？」黒フードの男

「いいだろう」シ

「しかしシン様・・・」高

「デッキの試運転だ・・・」シ

「了解いたしました」高

「では」黒フード

「「デュエル!!」」シ

「俺の先行・・・リバースモンスターにリバースカードを二枚セットしてターンエンド」シ

「私のターン・・・私はフィールド魔法・SINワールドを発動」黒  
「SINワールド・・・だと」シ

海馬コーポレーション

「海馬様・・・でした・・・盗まれたSINカードの一枚を確認」

磯野

「・デュエルを警備員が来た時点で強制終了する・システムをセツトしておけ・・・あれは禁断のあまり・インダストリアルイリユージョン社で封印されたカードだ」海

「駄目です・・・デュエルディスクが反応しません・・・二人のディスクはウイルスが仕掛けてあります」スタッフ

「ならウイルスを解除するワクチンを迅速に作れ・・・」海

「了解」スタッフ

(なんとか持ちこたえている)

「SINワールドがあり初めて召喚出来るモンスターが存在する・・・デッキにある・・・レッドアイズブラックドラゴンを墓地に送り・現れよ・SINレッドアイズブラックドラゴン」黒

「いきなりか」シ

「さらに・SINレッドアイズブラックドラゴンはレッドアイズブラックドラゴンとして扱うため・マジック発動・黒炎弾」黒

「そうは・させん・ハネワタの効果・このカードを墓地に送り・効果ダメージを一度だけ0にする(原作のSINモンスターとは違う)」シ

「ならば・手札より・SINフュージョンを発動・このカードはSINモンスターとの融合に必須カード・手札のSIN・デーモンと・

場のSIN・レッドアイズブラックドラゴンを融合・現れる・SINブラックデーモンズドラゴン」黒

（新たなSINサポートカードだど？これが俺とゆう存在が引き起こした・イレギュラーカードなのか？）シ

「SIN・ブラックデーモンズドラゴンの効果・このカードは貫通能力と・破壊した相手モンスターの攻撃力分のダメージを与える・行け・SINブラックデーモン・罪の波動・SIN・デーモンズ・バースト」黒

「トラップ発動・和睦の死者・」シ

「ucci・ならば・手札から・SIN・バーストを発動・フィールドのSINモンスターを除外して・その攻撃力分のダメージを相手のスタンバイフェイズに与える・私はSINブラックデーモンズドラゴンを除外し・カードを二枚セットしてターンエンド」黒

「俺のターン」シ

「スタンバイフェイズになったため・SINブラックデーモンズドラゴンの攻撃力三千二百のダメージを受けてもらっ」黒

LP4000-3200=800

「ぐわっダメージが現実なんだと？」シ

「言い忘れていたがこれは闇のゲームだ・・・それを肝に命じておけ」黒

「これが・・・これが闇のゲーム」シ

## 脅威なるSINモンスター（前書き）

SIN使いの正体とは???

## 脅威なるSINモンスター

「俺のターン・ドロー・・・一気に攻める・手札より融合発動・手札のサイバードラゴン三体を融合して・現れる・サイバーエンドドラゴン」シ

「ほう」黒

「いけ・サイバーエンドドラゴン・エターナルエボリューションバースト」シ

(通れ・・・)

サイバーエンドドラゴンの攻撃が直撃する

「ふう・危なかった・この永続トラップカード・SIN・ドレイン・がなかったら私は負けていた・このカードは・自分がダイレクトアタックを受ける時墓地のSINモンスターを除外し・除外したモンスターの攻撃力分ライフを回復する・私はSINレッドアイズブラックドラゴンを除外してライフを二千四百回復していたのだ」黒

「何？」シ

「さらに永続トラップ・罪の解放洗脳・発動・このカードはダイレクトアタックをしたモンスターのコントロールを得る・さらに・名前にSINと加える・サイバーエンドドラゴンのコントロールを得て・SINサイバーエンドドラゴンとして私の場に君臨」黒

「カードをセットしてターンエンド」シ

「私のターン・ドロウ・手札から魔法カード・天よりの宝札を発動・互いはカードを6枚になるようにカードをドロウする・さらに・SIN・ブレイク・トルネードを発動・フィールドにSIN・モンスターが存在するとき相手のデッキからSINモンスターのレベルの数だけ・デッキの上からカードを墓地に送る・SINサイバーエンドドラゴンのレベルは10よって十枚のカードを墓地に送れ」黒

「く」シ

デッキ枚数残り17

「さらに手札とデッキにある・SINモンスターをそれぞれ二枚墓地におく」手札より・SIN・リサイクル・カウントダウンを発動・このカードはフィールドにSINモンスターが存在するとき二ターンに一度・墓地にあるSINとなつた魔法カードをこのカードの効果としてしようできる・私は再びSIN・ブレイク・トルネードの効果を使用し・貴様のデッキから十枚のカードを墓地に送れ・ただし・私はSINリサイクルカウントダウンの効果を使用した・ターン・攻撃はできない・ターンエンド」黒

「く」シ

デッキ残り7枚

「俺のターン・・・」シ

（手札があつても・・・デッキがなくなれば・デュエルは俺の敗北・・・リサイクルカウントダウン・・・の発動までに攻略方法を考えなければ）

「俺は手札から・地割れ発動・・・」シ

「わっ私は・・・手札からSINガーディアンを墓地に送り・効果発動・ガーディアンは・このターン・SINモンスターの効果破壊を無効にする」黒

（奴が慌てた？・・・そういえばカウントダウンの発動条件は・・・SINモンスターの存在が必須・・・存在が必須？・・・確かSINモンスターはパラレルギア以外はレベル5以上のモンスター・・・ゆえにロックがしやすいと・転生前は友人にロックデッキでばこられたな・・・シンクロでロックするやつ・・・そういうや遊星対ジャックの最終戦・・・そういうあのカードなら・・・だが俺の手札にはチューナーや蘇生カードがないならば）

「俺はリバースモンスターとリバースカードを二枚伏せてターンエンド」シ

「私のターン・・・手札よりSINボックスを発動・・・次のターン・SINモンスターをデッキから手札に加える・ゆけSINサイバーエンド・エターナルエボリューションバースト・・・」黒

「トラップ発動・・・身代わりの贈り物・このカードは自分フィールドのモンスターを墓地に送り・・・墓地からカードを一枚手札に加える俺はサイバードラゴンを手札に加える・さらに・トラップ発動・幻影の盾・フィールドのモンスターを墓地に送り・このターン発生するダメージを0にする・・・」シ

「っちターンエンド」黒

「俺のターン・ドロー・手札よりコール・リゾネーターを発動・効果でデッキから・リゾネーターとなつたモンスターを一枚デッキから手札に加える・おれはダークリゾネーターを手札に」シ

「何をしようと・貴様はS I Nカウントダウンの効果でデッキが0となり敗北する」黒

「それはどうかな？」シ

「何？」黒

「見せてやるよ・・・デュエルの進化を手札から・サイバードラゴンを特殊召喚・さらにチューナーモンスター・ダークリゾネーターを召喚・サイバードラゴンに・ダークリゾネーターをチューニング・紅蓮の炎を駆け巡る・戦士よ・今その二双の剣を振るいまわし現れる・シンクロ召喚・いでよ・クリムゾン・ブリーダー」シ

「ほう・・・それが噂のシンクロ召喚・・・だがしかしS I Nサイバーエンドの攻撃力は四千・それでどうするつもりだ？」黒

「攻撃だ・クリムゾンブリーダー・さらに・手札から速攻魔法・紅蓮の咆哮・このカードは融合デッキにある・レッドデーモンズドラゴンを墓地に送り・相手モンスターの攻撃力を三千さげる」シ

「何？」黒

「いけ・クリムゾンブリーダー・ツイン・クリムゾン・スラッシュ」シ

「くっだが・・・次のターン・・・どうあがこうが・S I Nモンスターが



手札に加わる・貴様の負けだ」シ

「それは・どうかな?・・・クリムゾンブリーダーの効果・それは・相手モンスターを戦闘によって破壊し墓地に送った時次の相手ターン相手はレベル5の・モンスターを召喚・特殊召喚・できない」シ

「何?!」黒

「みたところ・SINモンスターは5レベル以上のモンスターばかり・・・これは効くだろ・・・カードを二枚ふせてターンエンド」シ

「私のターン・・・ターンエンド」シ

「俺のターン・行けクリムゾンブリーダー・・・ダイレクトアタック」シ

「くそ」黒・煙幕を使い逃げる

「待て」シ

「忠告しておく・・・いずれデュエルアカデミアに大いなる災いが訪れる・・・我々セブンスターズは既にデュエル進化を知り・・・強さは桁違いだ」と黒

「セブンスターズだと!?!」シ

(既にあいつらは動き出していた・・・まさか・最近・インダストリアルイリ्यूジョン社で大量にカードの資料が盗まれた・・・まさかあいつの正体は・あの目が書かれた黒フードは・・・グール

ズの残党か？)

ちなみにこのことを調べるために俺はインダストリアルイリユージ  
ョン社に戻りデータの確認をしていた

脅威なるSINモンスター（後書き）

妹は修学旅行編で出てきます

**寮對抗代表決定戦十代対三沢・前編（前書き）**

週間アクセス2400突破

ありがとうございます

読んで下さってる皆様方に感謝しております

前回投稿した脅威なるS I Nモンスターに前編・後編を加わるのを  
忘れました

お詫び申し上げます

それでは・お楽しみください

## 寮對抗代表決定戦十代対三沢・前編

俺がアカデミアに戻り・・・数日間がたった

俺は三沢・十代とともに校長室にいた

「えっ交流戦・代表決定戦？」三

「ええ・今年の一年生は既にとうかくをあらわしています・カイザ―は今年の交流戦を辞退して今年の代表は各寮から一年生・の中の一名寮長からの指名を受けた者を代表決定戦に参加させる・いわば君達は寮の代表なのです」鮫

「へえー」十

「なので・・・君達には明日・代表決定戦に参加してもらいます・・・ルールは代表が残りの代表と戦ってもらいます・では解散」鮫

解散後

「いよいよか」三

「お互いのデュエルを楽しもうぜ」十

「ああ」シ&三

翌日

「みんな誰が代表になると思いつすか」翔

「私は十代に」ももえ

「私は三沢に」ジュンコ

「私はシンに」明日香

「俺もシンに」隼人

「僕はアニキに」翔

「あつ始まるぞ」隼人

「これより寮対抗代表決定戦を開催するノーネ・対戦相手はくじで決めたノーネ・それではまず最初に対戦するのは・レッド寮・遊戯・十代・イエロー寮・三沢・大地」ク

クロノスに言われ・十代と三沢が入場する

「楽しもう」三

「ああ」十

「もうひとり・ブルー寮代表のシンは控室でデュエルを見ないことになっているノーネ・では」ク  
ステージから降りる

「「デュエル」」三沢&十代

控室

「三沢対十代・・・俺の介入によって・二人は原作よりも強くなり  
派手にやってるはずだ・・・見れないのは残念だ」シ

ステージ

「俺の先行ドロ・俺は天使の施しを発動・三枚引いて二枚捨てる・  
さらに苦渋の選択を発動・俺はマグネットウォリアー・・・と  
クリッターそしてネクロガードナーを選択・さあ十代・この中から  
カードを一枚選べ・・・」三

「俺はネクロガードナーを選択」十

「俺はネクロガードナーを手札に加えたあと選択されなかったカー  
ドを墓地に送る・さらにハイドロゲドンを召喚・カードを二枚伏せ  
てターンエンド」三

「俺のターン・手札から大嵐を発動・さらに融合を使いアブソルー  
トゼロを召喚・ゼロはフィールドに水属性モンスターの数×五百攻  
撃力をアップ・さらに墓地のネクロダークマンの効果発動・手札の  
レベル5以上のヒーローを生贄なしで召喚できる・いでよエッジマ  
ン」十

「このまま決まればアニキの勝ちっす」翔

「いけ・アブソルトゼロ・ハイドロゲドンに攻撃・エターナル・  
ブリザード」十代

LP4000 - 1400〃2600

「くっ」三

「この瞬間・墓地のトラップカード・バブルトラップを発動！このカードが・墓地にあるとき・水属性モンスターが戦闘で破壊された時・相手フィールド場のモンスターを破壊する・俺はエッジマンを破壊」三

「そんな・カードを二枚セットしてターンエンド」十

「俺のターン・俺はネクロガードナーを攻撃表示で召喚し強制転移を発動・このカードは互いはモンスターを選択して入れ換える・もつとも互いに交換に出すモンスターは決まっているがな」三

「・・・俺はアブソルートゼロ選択」十

「俺はネクロガードナーを選択・さらにアブソルートゼロでネクロガードナーに攻撃・絶対零度」三

LP4000 - 1900〃2100

「く」十

「焦るなよ・十代・・・ゲームはまだ始まったばかりだ」三



**寮對抗代表決定戦十代対三沢・後編（前書き）**

今回は三沢を強く見せられたかな？

## 寮对抗代表決定戦十代対三沢・後編

「俺はモンスターが戦闘で破壊されたため希望の戦士を発動・このカードは相手フィールド場に存在するモンスターの攻撃力が俺のライフを越えている場合・墓地の戦士族を特殊召喚する・蘇れ・エツジマン」十

「カードを二枚セットし・さらに天よりの宝札を発動・互いはカードを6枚になるようにカードをドローする・ターンエンド」三

「俺のターンドロー・ハリケーン発動・さらに融合を使い・ランパートガンナーを守備表示で召喚・行けっランパートガンナー・でダイレクトアタック・カードを二枚セットしてターンエンド」十  
LP2600-1000〃1600

「俺のターン（さすが十代・融合封じコンボに気がついたのか・それとも勘か？だがサイクロンがきても問題ない）俺は手札からハイドロゲドンを召喚・さらに闇の量産工場を使い墓地のマグネットウオリアー・を回収・さらに手札より・手札断殺を使い互いは手札のカード二枚を墓地に送り・さらにデッキからカードを二枚ドロイする・さらに闇の量産工場を使い・墓地のマグネットウオリアーとを回収・さらに・手札のを墓地に送り・現れるマグネツトバルキリオン」三

「攻撃力三千五百だって？」翔

「あれは伝説の決闘者・武藤・遊戯が使ったカード」明

「すごいんだな」隼

「へっスゲエな三沢」十

「誉めてる場合か？・俺は手札より・速攻魔法・収縮を使い・エツジマンの攻撃力を半分にして・ハイドロゲドンでエツジマンに攻撃」  
三

「トラップ発動・忍耐の戦士発動・エツジマンはこのターン戦闘での破壊で破壊されない」十

LP 2100 - 300 = 1800

「ならば・マグネットバルキリオンで攻撃」三

「ドレインシールド発動・攻撃を一度無効にしてライフを回復する」  
十

LP 1800 + 3500 = 5300

「ならば・アブソルートゼロで攻撃」三

LP 5300 - 1200 = 4100

「く」十

「カードを二枚セットしてターンエンド」三

「俺のターン・融合発動」十

「カウンタートラップ発動・封魔の呪印！このカードは手札の魔法をすてて発動する・魔法カードの発動を無効にして・無効にした魔法カードはこのデュエル中二度と使えない」三

「ならサイクロンでもうひとつのリバースカードを破壊するさらに天使の施しで三枚引いて二枚捨てる・・・俺は速攻魔法融合解除を

発動・アブソルートゼロを選択」十

「何？」三

「アブソルートゼロの効果は知ってるよな？・・・このカードがフィールドを離れた時・相手モンスターすべてを破壊する」十

「しまった」三

「さらに融合素材のネクロダークマンとオーシャンを蘇生・行け・エッジマン・エッジハンマー」十

LP1600 - 2600〃 - 1000

(畜生)

「勝者・レッド寮・遊戯十代」クロ

「よくやった・・・」「いいぞ」レッド寮生徒

「次の試合は三沢大地と械・シンナノーネ・・・選手入場・・・ブル寮・械」シン」クロ

シンが入場する

「十代が勝ったか・・・まあいい・・・予想圏内だ」シ

「ではデュエル・スタート」クロ

「デュエル」三&シ

## 寮對抗代表決定戦シン対三沢（前書き）

今回の三沢は噛ませ犬です

## 寮対抗代表決定戦シン対三沢

「先行はもらう・ドロー・俺はサイバーラーバアを攻撃表示で召喚・さらにカードを四枚セットしさらにマジックカード・封印の黄金櫃を使いデッキから・パワーボンドを除外・除外したパワーボンドは二ターン後のスタンバイフェイズに手札に加わる・さらに天よりの宝札で互いは手札を6枚になるようにドローする・ターンエンド」シ

「俺のターン（攻撃力が四百を攻撃表示？明かに罠だ・だが）今の俺には攻めるしかない・ハイドロゲドンを召喚し・サイバーラーバアに攻撃」三

「サイバーラーバアの効果・このカードが攻撃表示になった俺はこのターン戦闘ダメージは0になる・さらに永続トラップ・サイバーサモンブラスターを二枚発動・このカードは機械族が特殊召喚されるたび相手に三百ポイントのダメージを与える」シ

「まさかサイバーラーバアには・機械族を特殊召喚する・リクルーター能力が？！」三

「正確には同名モンスター一体をデッキから特殊召喚するのが効果だ・ハイドロゲドンとのバトルで破壊されたため・デッキよりサイバーラーバアを特殊召喚・よってサイバーサモンブラスターの二枚の効果で六百ポイントのダメージを受けてもらう」シ

LP4000-600〃3400

「だがハイドロゲドンが戦闘でモンスターを破壊したためハイドロゲドンをデッキより特殊召喚・ハイドロゲドンでサイバーラーバアを攻撃」三

「デッキよりサイバーラーバアを召喚し・サイバーサモンブラスターの効果により・六百ポイントのダメージを受けてもらう」シ

LP3400 - 600 = 2800

「それはこちらと同じだ・行けハイドロゲドン・最後のサイバーラーバアを攻撃」三

「トラップ発動・サイバーリサイクルユニット・このカードは手札を二枚捨て・墓地のサイバーと名のついたカードをデッキの一番下に置きカードを一枚ドロウする・さらにサイバーラーバアの効果・戦闘で破壊されたためデッキよりサイバーラーバアを特殊召喚さらに六百ポイントダメージ」シ

LP2800 - 600 = 2200

「・・・強欲な壺発動・ピケルの恩恵を発動しピケルを三枚見せて三枚使いライフを三千回復・・・カードを二枚セットしてターンエンド」三

LP2200 + 3000 = 5200

「俺のターン・手札より融合発動手札のサイバードラゴンを含むモンスターを融合素材に」シ

「カウンタートラップ発動・封魔の呪印・発動」三

「ご苦労だな・・・手札よりUFOタートルを召喚・さらにスピリットバリア・さらにサイクロンでリバースカードを破壊さらに速攻化発動・発動コストで手札を一枚捨てるこの効果で手札からバトルフエイズに通常魔法を発動できる・天使の施しで三枚引いて二枚捨てる」シ

「サイバーサモンブラスターでライフを削る気か」三

「さあな？・行けサイバーラーバア・ラーバアが戦闘で破壊されたためデッキから・最後のサイバーラーバアをさらにUFOタートルでハイドロゲドンに特効さらにUFOタートルの効果でさらにUFOタートルを特殊召喚・召喚した・UFOタートルで特効さらに効果でUFOタートルを召喚し・特効さらにデッキよりサイバーフェニックスを召喚・さらに悪夢を見せてやろう」シ

LP5200-900〃4300

「何？」三

「速攻化により手札から通常魔法・オーバーロードフュージョンを発動・俺は墓地にあるサイバードラゴン二枚とUFOタートル三枚・さらにサイバーラーバア三枚と・サイバードラゴンツバアイ二枚とフィールドのサイバーフェニックスを融合・いでよ・キメラティック・オーバー・ドラゴン・このカードの攻撃力は融合素材のモンスター×八百となるよって攻撃力・八千だ・さらにこのカードは融合素材の数だけ攻撃できる」シ

「そんな・・・」三

「キメラティックオーバードラゴンの攻撃・キメラティック・レーザー・三連射」シ

LP4300-19200〃-14900

「勝者・械シン・よって三沢大地は・代表決定戦・敗北・ナノーネ」ク口

「がっかりだ・・・せつかく手が読まれているサイバーデッキを使ったのに」シ

「くそ・・・俺は・・・俺は絶対お前を倒す・いや倒してみ



せる」三

「では代表決定戦最終戦・レッド寮代表・遊戯十代対ブルー寮代表・械シン・・・デュエル開始ナノーネ」クロ

「デュエル」十代&シン

## 寮对抗代表決定戦シン対三沢（後書き）

来週からテストが始まるので更新が遅れるかもしれませんが

楽しみにしている方々にお詫び申し上げます

**寮对抗代表決定戦・十代VSシン（前書き）**

すいません

先週に載せるつもりがノロウイルスにかかりのせれませんでした

本当にすいません

## 寮对抗代表決定戦・十代VSシン

「俺の先行ドロ・手札から・永続魔法サイバーフォトン・フィールドを発動・このカードがフィールドに存在する時・自分のサイバーと名のついた・モンスターの数だけ・相手の魔法・トラップを無効にして破壊する・手札よりサイバーガーディアンを守備表示で召喚・このカードが召喚に成功したとき・デッキよりレベル4以下のサイバーを守備表示で特殊召喚するただし効果は無効となる・いでよプロトサイバー」シ

「何？」十

「これにより・俺はお前の融合を封じることができる・カードを二枚セットしてターンエンド」シ

「俺のターンドロ・手札から融合発動」十

「当然無効」シ

「手札からシールドクラッシュ発動」十

「これも無効だ」シ

「手札よりマジックカード・天使の施しを使い・三枚引いて二枚捨てる・さらにバブルマンを召喚・（壺男が？バイ三沢）フィールドにこのカードしか存在しないためカードを二枚ドロする・さらに手札よりヒーローチェンジ発動・フィールドのヒーローをいけにえ

に墓地のヒーローを召喚ただし同じヒーローは召喚できないけどな  
するいでよーシヤン・さらに墓地のネクロダークマンの効果でエ  
ッジマンを召喚して・ミラクルフュージョン発動・墓地のネクロダ  
ークマンとバブルマンを融合・こい・アブソルトゼロ」十

「トラップ発動・フュージョンアウト・このカードはフィールドの  
モンスターを生贄に相手の融合モンスターの召喚を無効にして破壊  
する・俺はプロトサイバードラゴンを生贄にする・さらにアブソル  
ートゼロの効果の発動に対して道連れ発動・自分のモンスターがフ  
ィールドから墓地に送られる時・相手モンスター・一体を破壊する・  
エッジマンには道連れになってもらう」シ

「くそカードを二枚セットしてターンエンド」十

「俺のターンドロー・手札からサイバーと名のついたモンスターを  
墓地に送り・手札からサイバーインパクト発動・これにより相手の  
リバースカードを二枚破壊する」シ

「そんな（これじゃあ・エッジマンを蘇生できない・発動条件を満  
たしてないためエッジハンマーも発動できない）」十

「さらに天よりの宝札を発動・互いにカードを6枚ドロウする・さ  
らに手札からパワーボンド・手札のサイバードラゴン二枚を融合・  
いでよサイバーツインドラゴン・さらにリミッター解除・パワーボ  
ンドの効果も交じり・4倍となる・行けサイバーツインドラゴン・  
ツインエボリューションバースト」シ

「うわ」十

LP4000-11200〃-7200

「これで学園の代表は俺だ」シ

「くく楽しいデュエルだった・またやろうぜ」十

「そんなことより十代・もうすぐこの学園で戦いが起こる・大切な物を失いたくなければ力を研いておけ」シ

「どうゆうことだ？」十

「いずれ分かる」シ

（次の相手は万丈目か・・・まあ負けenないとしてセブンスターズでは若干不安がある・・・原作とは違いサイバー流にいたところにこっそりすり変えたからな・・・サイバーダークシリーズを取り寄せるか）

シンは知らない・・・サイバーダークシリーズを賭けてカイザーと一騎打ちになるのがもうすぐ学園で行われるのを

対ノース万丈目 目が眩んだ欲望は犬にでも食わしておけ

ノース校来航する当日

「完成」シ

（このデッキは万丈目を叩き潰す・しばらくシンクロ・エクシーズ使えないしな）で・調べましたよ・禁止制限・準制限カード・苦渋の選択とか使える時点で間違ってる・まあシンクロが発達したらルールは代わるだろうが・それより原作ブレイク作戦はまだ始まったばかり・なんせ今海馬コーポレーションに頼んでネオスがこちらに向かっている・セブンスターズ編には間に合うだろうな・ユベルは・・・・現在インダストリアルリユニジョン社で精霊と話せる人間が保管している・・・・いやなんせ二年間派手に行つてさらに一年は平和にしたい・・・・まあユベルには十代にあわせると言つてある・・・・それでおとなしくするとゆう約束をした・・・・不安だ・・・・不安でしかない・・・・まあいつか・・・・責任は全部十代なんだし・・・・さすがにかわいそうか・・・・策はあとで考えよう・・・・ん電話？）

「もしもし？はいペガサスさん？」シ

ところ変わってデュエル場

「すごいカメラの数だな・・・・」三

「どうやら海馬コーポレーションとインダストリアルリユニジョン社のカメラがシンクロ召喚のエキシビション戦に今回の学園対抗を利用するみたい」明

「さてよ・・・それじゃあ万丈目は・・・」十

「血祭りにあげられるためにあそこにいることになるっす」翔

（（（（（哀れだな）））））

「さて・・・貴様にデッキを選ばせてやる・・・一つは氷・・・一つは渓谷一つは・・・暗黒さあこのなかからどれを選ぶ？」シ

「（氷だと前回トリシューラにやられたからな暗黒は物騒だなら）  
渓谷を選択する」万

「なら」シ

「「デュエル」」シ＆万

「俺の先行・ドロー・おれは通常召喚権利を破棄してマジックカード・レベル・サモンを発動・手札のレベルモンスター・一枚を墓地に送り・そのレベルモンスターの進化先をデッキより特殊召喚・ただし攻撃はできないが先行だからそのリスクはルールによって・関係ないの俺はアームド・ドラゴン・レベル3を墓地に送りアームド・ドラゴン・レベル5を特殊召喚・さらにカードを二枚セットして未来融合・フューチャーフュージョン発動・俺はF・G・Dを選択・俺は融合素材のドラゴン族5枚を墓地に送る・ゴーレムドラゴン二枚とスピアドラゴンとサファイアドラゴンとタイラントドラゴンを選択これでターンエンド」万

「俺のターン・ドロー・俺は大嵐を発動・フィールド場に存在する魔法・トラップをすべて破壊する（伏せカードは・・・うわっリビ



ングデッドに収縮かよ・・・多分レベルアップを狙ったつもりだろうけど・・・シンクロには劣るな）俺は・フィールド魔法・竜の渓谷を発動・このカードは手札からカードを一枚捨てて効果を発動する・俺は手札のドラグニティ・フランクスを捨て・デッキからドラグニティと名のついたモンスターを手札に加える俺はドラグニティ・ドウクスを手札に加える・さらに加えたドウクスを召喚して・ドウクスは自信の効果で墓地のドラグニティを装備できる・俺はフランクスを装備しフランクスは装備カードの自身のフィールドに特殊召喚できる・万丈目こいつはチューナーだ・意味分かるよな  
「シ

「まさか」万

「予想通りだ・俺は装備状態のフランクスをフィールドに特殊召喚・4のドラグニティドウクスに2のドラグニティ・フランクスをチューニング・疾風を駆け抜ける・竜騎士よ・決着をつけるべく今この場に出現せよ・シンクロ召喚・現れよ・ドラグニティナイト・ヴァジュランダ・」シ

「なんだ・たかが1900で何ができる」万

「ドラグニティナイト・ヴァジュランダは墓地にあるドラグニティを装備カードとして装備・さらに装備されている・ドラグニティを墓地に送り・攻撃力を倍にする」シ

「何？」万

「さらに・手札から永續魔法・竜操術を発動・このカードの効果で手札のドラグニティを装備する・俺はドラグニティ・ブランドイストックをドラグニティナイト・ヴァジュランダに装備して・竜操術

の効果で攻撃力・五百アップし・ブランドイストックは装備モンスターを二回攻撃を可能にする・よってこのターンでデュエルは終了するが・収縮発動・アームドラゴンレベル5の攻撃力を半分に・このターンが終焉だ・行け・ドラグニティナイト・ヴァジユランダ・  
・結束の双剣・二連げき・ダイイチダゝゝシ  
LP4000 - 3100〃900  
「うわー」万

「ダイニダゝゝシ

LP900 - 4300〃 - 3400

「何をやっている？準・貴様は全国に万丈目一族の恥さらしをしたんだぞ」万丈目長男

（これやだな・・・念のため用意したかいがあった）

シン・万丈目・アニその一の肩を叩く

「なんだ貴様」万丈目次男

「KILL・YOU・テレビのニュースを見る」シ

「ニュースだと？」万丈目ブラザーズ

ニュースを見ると

政治献金問題など万丈目兄が起こした法律違反を報道していた

「これは……馬鹿なあれは他言無用で金をかけたはず」万丈目兄

「お前の近辺のやつを買収したら出たぞ・まあ一部の奴らは海馬コーポレーションやインダストリアルリユージョン社に雇われるならいいって泣きついてきたよ……お前らよっぽどひどいことしたんだな」シ

「くそ」万丈目・兄達・対応するために帰る

その後・万丈目は原作通りにオシリスレッドに

さあて祭はもうすぐか……

対ノース万丈目 目が眩んだ欲望は犬にでも食わしておけ（後書き）

次回

セブンスターズ編始まり・サイバーダークを賭けた戦い・亮？シン

セブンスターズ編開幕・サイバーダークシリーズを賭けた戦い・亮？シン（前書

こんな駄文を読んでくださってありがとうございます？

セブンスターズ編開幕・サイバーダークシリーズを賭けた戦い・亮？シン

ノース万丈目と戦い数日がたった

もうそろそろかなっと思っていると

「明日香君・十代君・それに三沢君・シン君・万丈目君・校長がお呼びだニヤー」一緒に校長室に来てほしいニヤー」大徳寺

廊下

「このメンバーを呼ぶ理由ってなんだ・三沢？」十

「さあな・分かるのはこのメンバーは実技成績をトップで通過しているだけだ」三

ちなみに順位は

一位シン＆十代

二位明日香＆万丈目＆三沢

「おっカイザーとクロノス先生も一緒だ」十

その後三幻魔の説明を聞いたが飛ばすだっってみんな原作と全く同じなもの

その後鍵を受け取る前に校長いや鮫島師範から衝撃の一言が

「亮・シン君達には裏サイバー流もといサイバードークシリーズを受け取る気はないか？」 鮫

「サイバードークシリーズ？」

「サイバーダークシリーズそれはサイバー流に反し・リスペクトを否定したまさに裏サイバー」シン

「その圧倒的力とサイバー流に反したため封印されていたサイバーシリーズ……でも何故？」 亮

「聞いたところセブンスターズはインダストリアルイリユージョン社のデータを盗み・そこから強力なカードを作り出すと言う・・・・それに對抗するにはデータが破棄されたサイバードークを使う選択肢もあります・・・亮・シン受け取る気はありますか？」鮫

「俺は受け取らない・・・おそろくシンも」 亮

「いいや受け取る・・・セブンスターズに対抗するために選択肢を増やすのもいいからな」シ

「……やはりあなたは変わった……インダストリアル  
イリユージョン社で一体何が？」亮

「別に・・・リスpektデュエルみたく手加減デュエルも相手に失礼と教えられたただけだ」シ

「……ならデュエルです……俺が勝ったらサイバーダー

クシリーズは受け取らない・・・俺が負けたら何もいいません・・・  
「亮

「いいだろう・そのかわり・このデュエルで俺が使用するのはサイバードークだ・・・これなら納得がいくだろ・表が勝てば表の考えが通り・裏が勝てば裏の考えも肯定される」シ

「分かりました・・・では今から1時間後デュエル場で待ってます」  
亮

1時間後

「リスペクトデュエルを否定するデッキなんて認められない???」  
翔

「けど大丈夫かしら」明

「確かに・いくら強力と言ってもサイバードークシリーズを初めて見るシンに使いこなせるか」三

「そこが勝利の分かれ目か」十

「おっ始まるぞ」万

「リスペクトデュエルを否定するサイバードークを俺は倒す」亮

「やってみな」シン

「「デュエル」」シン&亮



「先行はもらおうか・ドロー・俺は龍の羽ばたき跡を発動・手札のドラゴン族を二枚墓地に送り・カードを二枚ドロー・現れよサイバー・ダークーの機械・サイバー・ダークホーン・こいつは召喚に成功した時・墓地のレベル4以下のドラゴン族を装備する・俺は墓地にあるレアメタルドラゴンを装備・サイバー・ダークシリーズは装備したモンスターの攻撃力分攻撃力をアップする・レアメタルドラゴンの攻撃力は2400よって攻撃力は3200だ」シ

「先行で攻撃力3000越え？」明

「あんなカード反則つす」翔

「いや・レアメタルドラゴンはその攻撃力ゆえ通常召喚は許されていない・特殊召喚でのみ召喚可能なモンスターだ」万

「さすがドラゴン族使い」三

「俺はカードを二枚セットしてターンエンド・」シ

「俺のターン・パワーボンド発動・これにより手札のサイバードラゴン三枚を融合いでよサイバーエンドドラゴン・パワーボンドによつて攻撃力は二倍・行け・サイバーエンドドラゴン・エターナルエボリューションバースト」亮

「トラップ発動・パワーウォール・ライフの百ダメージにつきデッキのカードを一枚墓地に送り・そのダメージを無効にする・俺は48枚のカードを墓地に送り・サイバーエンドドラゴンのダメージを無効」シ

「何？自分のデッキを無効にしてまで・・・なぜ」亮

「なぜ？答えは単純だ・・・勝つためだ・サイバードークは破壊される時・代わりに装備カードを破壊する」シ

「サイバードークを召喚し効果で生贄にしてパワーボンドのデメリットを回避カードを一枚伏せてターンエンド」亮

「俺のターン・ドロー・俺は手札から・同名排除発動・相手のモンスター一体を選択し・そのモンスターの同名モンスターがいる場合それを墓地に送る・いなければ選択したモンスターの攻撃力の半分のダメージを受ける・俺はお前のサイバードークドラゴンを宣言・融合デッキにあるはずだ」シ

「確かにサイバードークドラゴンは二枚ある・墓地に送る」亮

「俺は強欲な壺を発動・デッキからカードを二枚ドロー・これで準備は整った・手札より黄泉の恵発動・このカードは墓地に40枚以上のカードが存在する場合発動可能！デッキと手札にあるカードを全て墓地に送り・墓地にある6枚のカードを手札に加える・デビルサイクロン発動このカードはライフを半分払い・相手のリバーサイドを破壊する・このさいチェイン出来ない・さらにリバーサイド発動・輪廻どくだん・このカードは墓地にあるモンスターを俺が宣言した種族にする・俺はドラゴン族を選択・パワーボンド発動・フィールドのサイバードークホーンと手札のサイバードークエッジ・キールを融合・いでよサイバードークドラゴン・パワーボンドの効果で攻撃力は二倍さらにドラゴン族となったサイバードークドラゴンを装備・さらに墓地のカード一枚につき攻撃力・100ポイントアップ・墓地のカードは50枚・よって攻撃力・11000さらにマジックカード・収縮・相手モンスターの攻撃力を元々の半分にして・攻撃・いけ・サイバードークドラゴン・フルダークネス・バー

スト  
「シ

LP4000-9000  
" - 5000

「くそつ  
「亮

セブンスターズ編開幕・サイバーダークシリーズを賭けた戦い・亮？シン（後書

今週は四話ぐらい投稿したいと思います

セブンスターズ編開幕・サイバーダークシリーズを賭けた戦い・亮？シンデユエ

すいません???

携帯で投稿して文字数の数を越えていることに気がついていません  
でした???

## セブンスターズ編開幕・サイバーダークシリーズを賭けた戦い・亮？シンデュエ

「お前らしくもない・あの時普通はサイバードラゴンを守備表示にするか・それともサイバーツイン・ドラゴンで攻めれば結果は違っていたはずだ・お前はサイバーダークに恐怖を感じていたんだな」シン

「シン君・デッキを強化してもらったのは嬉しかったけど・今回は認められない・徹底的に叩き潰すのはサイバー流に反する・サイバー流のデッキを返せ」翔

「よせ翔・これは俺とシンの問題だ」亮

「けど」翔

「翔・サイバー流のカードは預けてやるそれと亮・一つ警告しておく・リスペクトデュエルの甘い考えはこれからお前の足を引っ張ることになるぞ」シン

「なら・俺はそれ乗り越えてみせる」亮

その後俺は原作で大徳寺先生が預かる予定の鍵を受けとった

その後カイザーはカミューラに負け・リスペクトデュエルを捨てる決意をするのはもうすぐである

夜

「いきなり何の用事だ？神」シン

「主には神の器の試練を受けてもらう・このままでは幻摩は復活するからの」神

「いいだろう・相手は誰だ？」しいきなり男が現れ  
「俺達だ」二人組

神からの試練・対天豪ジロウ前編（前書き）

作者乱入（笑）



## 神からの試練・対天豪ジロウ前編

「試練は・特別な空間で行う」神は三人を転送した空間

「まずは自己紹介だ・俺は天豪ジロウ・パラドックスとともにロマンを追う者だ・今回はたまたま死んだところ神の手伝いをするかわり・とあるカードをいただいた」ジ

「俺の名は械シン・転成者だ」シ

「時間がないぞ・ジロウ・両者構えろ」パ

「これより試練を始める」ジ・デュエルディスクを装着

「デュエル」「ジロウ&シン

「俺のターンドロロー・俺は永続魔法・未来融合を発動・俺はファイブ・ゴッド・ドラゴンを選択しデッキよりウィッシュドラゴンとトライホーンドラゴンと伝説の白石を墓地に・さらに伝説の白石の効果によりデッキからブルーアイズホワイトドラゴンを三枚手札に・さらにバニラ・リバーズ発動・このカードは俺の通常召喚権利を破棄する代わりに墓地の通常モンスターを特殊召喚できる・いでよ・俺のデュエルの始めるきっかけをつくった・ドラゴン・トライホーンドラゴンを墓地から攻撃表示で特殊召喚・さらに融合発動・手札のブルーアイズホワイトドラゴン三枚を融合しいでよブルーアイズアルティメットドラゴン・カードを二枚セットしてターンエンド」ジ  
「（ドラゴン族デッキか？）俺のターン・俺は手札から・強欲な壺を発動・さらに手札からワン・フォーワンを発動・このカードは手

札のモンスターをコストにデッキからレベルーモンスターを特殊召喚できる・いでよレベルステイラー・さらにレベルステイラーを生贄にいでよ雷帝ザボルグ」シ

「帝ビートか」パ

「帝ビート？」ジ

「簡単に言えば生贄召喚で効果を発揮するモンスター達を中心にしたビートダウン・雷帝ザボルグは生贄召喚で召喚した時・相手モンスターを一体破壊する」パ

「まさか」ジ

「そのまさかさ・ザボルグの効果でアルティメットドラゴンを破壊する・さらに永続魔法・強者の苦痛発動・このカードの効果でトライホーンドラゴンのレベル×100ポイント分トライホーンドラゴンの攻撃力をダウンさせる」シ

「何々俺のフェイバリットモンスターが」ジ

「行け・ザボルグ・サンダー・ナックル」シ

「くっ」ジ

LP 4000 - 4000 3600

「カードを二枚セットしてターンエンド」シ

「俺のターン・ドロー・強欲な壺を使い・デッキからカードを二枚ドロー・さらにリバースカード・ドラゴンの恵を発動・墓地のドラゴン族が7枚・以上の時・デッキからカードを二枚ドロー・さらに

手札から・同名召喚発動・自分のデッキから・レベル四以下のモンスターを墓地に送りその同名モンスターを蘇生させる俺はウィッシュ・ユドラゴンを墓地に送り・墓地にあるウィッシュ・ユドラゴンを蘇生・さらにウィッシュ・ユドラゴンの効果で・ウィッシュ・ユドラゴンを生贄にしてドラゴントークンを二体召喚・さらにマジックカード・ドラゴン・トークンミラー・発動フィールドのドラゴン族のトークンを選択し同じ名前のトークンとしてコピー・トークンを特殊召喚するさらに・壺の中の魔術書を発動・互いはカードを三枚引く・さらに俺は・サイクロンを使い・強者の苦痛を破壊」ジロウ・一枚のカードを持ち構える

「・三体のモンスターを生贄に」ジ

(くるか)パ

「何だ?・この威圧感は??」シ

「いでよ・三幻神の一体・オベリスクの巨神兵」ジ

「三幻神だと?」シ

「これこそ試練を乗り越えた時・お前に与えられる力だ・行け・オベリスクの巨神兵・ゴッド・ハンド・クラッシャー」ジ

「うわ?」シ

LP4000 - 1600 = 2400

「どうした?デュエルはまだまだ始まったばかりだぞ」ジ

神からの試練・対天豪ジロウ前編（後書き）

次回

オベリスクの巨神兵を攻略したシン・しかし・ジロウにとっては本  
当の戦いのための準備にすぎなかった

次回

神からの試練・対ジロウ後編  
二つの神を打ち破れ

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4008v/>

---

遊戯王GX・栄光と引き換えの転生

2011年11月9日19時18分発行